やぶにらみの暴君（1952）

LA BERGERE ET LE RAMONEUR

メディア 映画　アニメ
ジャンル ドラマ　ファンタジー
製作国　フランス
色彩　Color
時間　66分
初公開日 1955/03/19
公開情報 ユニオン＝ＮＣＣ

【解説】

タキカルディ王国のシャルル１６世は“やぶにらみの暴君”と呼ばれ人々から畏れられていたが、実は孤独な人物だった。城の最上階に掛けた肖像画の中では、羊飼いの娘と煙突掃除の少年が駆け落ちし、絵の中の暴君は二人を追って現実世界へ飛び出してくる。そして、本物の暴君になりかわり、娘と少年を捕らえるべく追っ手を放った……。フランス製の長編アニメーションとしては元祖とでも呼ぶべき作品（日本初のカラー長編アニメが５８年の「白蛇伝」である事を考えれば頷けるだろう）で、砂糖菓子のようなディズニー路線とは全く異なる方向性がユニーク。いびつにも思えるデザインと毒気のあるキャラクターが横溢し、独特のムードを造り出すが、暴君によって出動した巨大なロボットが暴れ回るクライマックスの迫力は圧倒的だ。資金難による苦しい状況下で製作されており、こんなにも面白く仕上がっているにも関わらず、監督Ｐ・グリモオは本作を気に入っておらず、８０年に「王様と幸運の鳥」としてリメイクした。お城、暴君、少女、そしてパワフルな追っかけシーンという要因を見るまでもなく、我が宮崎駿の名作「ルパン三世／カリオストロの城」（「長靴をはいた猫」というそのまた先駆けもあるのだが）にもその影響は窺える。

【クレジット】

監督	ポール・グリモー	Paul Grimault
製作	アンドレ・サリュー	Andre Sarrut
脚本	ジャック・プレヴェール	Jacques Prevert
	ポール・グリモー	Paul Grimault
台詞	ジャック・プレヴェール	Jacques Prevert
音楽	ジョセフ・コズマ	Joseph Kosma
声の出演	ロジェ・ブラン	Roger Blin
	アヌーク・エーメ	Anouk Aimee
	ピエール・ブラッスール	Pierre Brasseur

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.